

ふじわら たけし
藤原 孟 議員

ボランティア活動の参加 にポイント制度導入を

現状として活動者の高齢化や若者も活動者が固定化されている。増加傾向のある傾聴や介護、また環境安全安心に関する地域ボランティアにも活動者減少の危機感が走っている。

これから活動して欲しい団塊世代は、①競争社会で生きてきて疲れている。②自分の両親の声すら傾聴できない。③あきらかな経費削減を目的とした協働に抵抗を感じる。④知らないうちに地域貢献にまきこまれている。など、やればやるほど疑問が積み重なり参加意欲が減少する。この対策に参加した行動に、ポイントを付与して自身が支援を受ける立場になったとき使用できる制度をつくるべき。

町長 ボランティア活動は本町の社会福祉を進める上でも重要な活動である。
ボランティア固有の役割、価値が認められる方策や支援が今後の課題と考えている。ご提言いただいたポイント制度の創設については、現在策定を進めている地域福祉計画の中で検討するとともに、今後、社会福祉協議会が策定を予定している地域福祉計画実践計画の中でも検討してもらおうよう、協議を進めていきたい。



ボランティア活動



高度な知識社会に生きるため「まちなか情報サロン」の設置を

高齢者だけでなく、今迎えている社会は新しい科学技術や知識を身につけなければ、生活に支障をきたす。その対応に、不特定多数の人が自由に滞在でき交流のできる場をつくり、職員は庁舎という敷居の高い所から出てきて同じ目線の高さで語り合う場とし、住民には、住み慣れた地域で安全安心な生活を送るために、情報を整理してもらおうための場を設置すべき。

町長 「まちなか情報サロン」の設置について、主に高齢者の集いの場を確保するという観点でのご提言と思います。
本町では、札内地区ではボランティアサークル「でんでん虫の会」による「サロン」が定期的に開設され保健師が活動をサポートして参加している高齢者や障害を持たれた方には大変好評を得ていると

聞いている。
また、障害者自立支援協議会が毎月開催している定例会でも、障害者だけではなく高齢者を含めた「サロン」について、先進地の事例等の調査研究を進めている。
高齢者や障害者の方が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるためには、常に地域社会とつながりを持つことが大変重要であることから、今後、各種団体の方と協議をしながら、先進地の事例等を参考に調査研究を進めていきたい。



でんでん虫の会のみなさんによる「サロン」